

年度/Academic Year	2022
授業科目名/Course Title (Japanese)	ISアーキテクトのためのビジネスモデリング
教員名/Instructor (Japanese)	宮川裕之・三輪一郎
講義概要/Course description	
<p>情報システムの目的の変遷を振り返る中で、ISアーキテクトが置かれる問題状況とロールモデル、そこで求められる専門領域について考える。</p> <p>情報システム開発における設計書の書式（書き方）には様々なものがあるが、情報システムをモデル化して捉えることで、設計書の書式や表現すべき内容を正しく整えることができる。あいまいに理解されやすい「情報システム」を「業務の仕組み」として捉え、これをコンピュータの支援を受けて成立させることを想定した際に有用なモデリングの手法（プロセス・モデリング手法、データ・モデリング手法）を習得する。単眼のモデル化だけでなく、「プロセス×データ」、「プロセス×組織」、「データ×組織」といった複眼的な着想にも注目する。</p> <p>併せて、Agile型開発への応用ポイント、ならびに経営戦略からシステム機能への要件の継承手法であるQFDの考え方と適用価値を学ぶ。</p>	
達成目標/Course objectives	
<p>以下を理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ISアーキテクトに求められる専門性の理解をとおして、学びの切り口の多様性を理解する ・ ISアーキテクトのマインドセットを身につけ、学びの持続性と応用力を醸成させる ・ 情報システムとは：ビジネス・システムとコンピュータ・システムの関係 ・ 情報化の工程（ビジネス戦略分析、情報化企画、業務とシステムの設計、構築と運用） ・ プロセスモデルとデータモデルの関係 ・ プロセス・モデリング手法／データモデリング手法 ・ 組織・情報・データ・システムの関係 ・ Agile型アプローチへの応用例 ・ 要件継承の手法：QFD 	
授業計画/Lecture plan	
講義回	
1	<ul style="list-style-type: none"> ・ オリエンテーション ・ 情報システムの目的の変遷と求められる人材像
2	<ul style="list-style-type: none"> ・ グループワーク & ディスカッション

3	・デジタルトランスフォーメーションとISアーキテクトの役割
4	・グループワーク&ディスカッション
5	・システムとは、情報とは、データとは、情報システムとは ・情報システム構築の進め方
6	・ケーススタディーA大学の教育研究システムの導入のケース ・教育研究機関というところ
7	・情報システムの目的の変遷と情報部門の役割ー「つなぐ」機能 ・情報システムポリシーの組織的オーソライズ
8	・グループワークの課題説明 ・グループワーク&ディスカッション
9	・グループワーク&ディスカッション
10	・成果の共有と振り返り
11	・モデルとは、情報システムのモデル化の3本柱：組織・プロセス・データ ・IRMモデル（情報システムのメタ構造）とモデリング手法の関係
12	・情報システムのモデルと情報システム構築手順の概念モデル：論／物×現／新マトリクス
13,14	・プロセス・モデリング手法解説，プロセス・モデリング小演習 (BPMN, IDEF0, 業務フロー, UML2.0)
15,16	・データ・モデリング手法解説，データ・モデリング小演習 (E-R図, IDEF1X, THモデル, クラス図, その他の手法)
17	・組織×プロセス，組織×データ 観点の重要性
18	・Agile開発を想定した応用型ビジネスモデリングのポイント
19,20	・戦略の実現と説明責任から捉える要件継承の重要性とQFD手法の価値 ・QFD手法を活用した情報システム構築の流れ，QFD作成の小演習
授業方法/Method of instruction	
講義と相互ディスカッションのハイブリッド方式，数回の小演習を実施	
成績評価方法/Evaluation	
以下のポートフォリオを評価する 授業への参加(30%), 受講レポート(40%), 小演習の回答(30%)	
参考書/Reference books	

情報システム学へのいざない-人間活動と情報技術の調和を求めて, 浦昭二, 細野公男, 神沼靖子, 宮川裕之, 山口高平, 石井信明, 飯島正, 培風館 (1998)
SLCP-JCF2013, BABOK 3.0, DMBOK 2.0, UML2.0
北村充晴(著): 「システム開発のすべて」 日本実業出版社 (2008)